2024 年度（令和 6 年度）

事業報告書

学校法人　OCC

2025 年 5 月 28 日

■目次

第一部　学校法人 OCC の概況

１．基本情報 p. 3

２．建学の精神 p. 3

３．基本方針 p. 4

４．学校法人および短期大学の沿革 p. 5

５．設置する学校等 p. 8

第二部　2024 年度 事業の概要

１．短期大学の主な教育・研究の概要 p. 9

２．短期大学の学生諸活動・行事報告 p. 12

３．地域との協働・社会連携の推進、社会人学び直し機会の提供 p. 13

４．短期大学の入学定員確保の取組み p. 14

５．短期大学の進路（就職等）支援の取組み p. 15

６．短期大学各部門の取組み p. 17

７．付属園の充実に関する取組み p. 18

８．大学院大学開設への取組み p. 20

９．法人本部の取組み p. 20

第三部　財務の概要 p. 21

第四部　今後の課題 p. 21

2024年度（令和6年度）　事業報告書

第一部　学校法人OCCの概況

１．基本情報

(1)　法人の名称　学校法人OCC
（旧名称：大阪キリスト教学院、2024年2月21日に名称変更）

(2)　主たる事務所

住所　〒545-0042　大阪市阿倍野区丸山通１－３－６１

電話番号　06-6652-2091（代表）　　FAX番号　06-6652-2068

URL　　http://www.occ.ac.jp/

２．建学の精神

本学院は自由メソヂスト教会の伝統を汲む河邊貞吉により、
明治38年(1905年)にキリスト教伝道者を養成する神学校として
創設された。

学院第二世紀においても『道・真理・いのち』である
イエス・キリストに倣って、神と人に仕える人間の育成を目指す。
『わたしは道であり、真理であり、命である。』
ヨハネによる福音書14章6節

本法人は1952年（昭和27年）の短期大学の設立に伴い、牧師・保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・企業人等の養成の目的が加わり、また幼稚園・保育園・こども園を併設し、地域と関わってきた。学院の変わらない理念は、『道・真理・いのち』であるイエスに学び、正しい生き方を求め、真理を重んじ、命を尊重し、他者への愛と奉仕の精神を持つことである。

大阪キリスト教短期大学はこの精神を受け継いで、こどもを愛し、すべての人々と共に生き、社会に貢献する人の育成を行っている。

3．基本方針　「ミッションとビジョン」

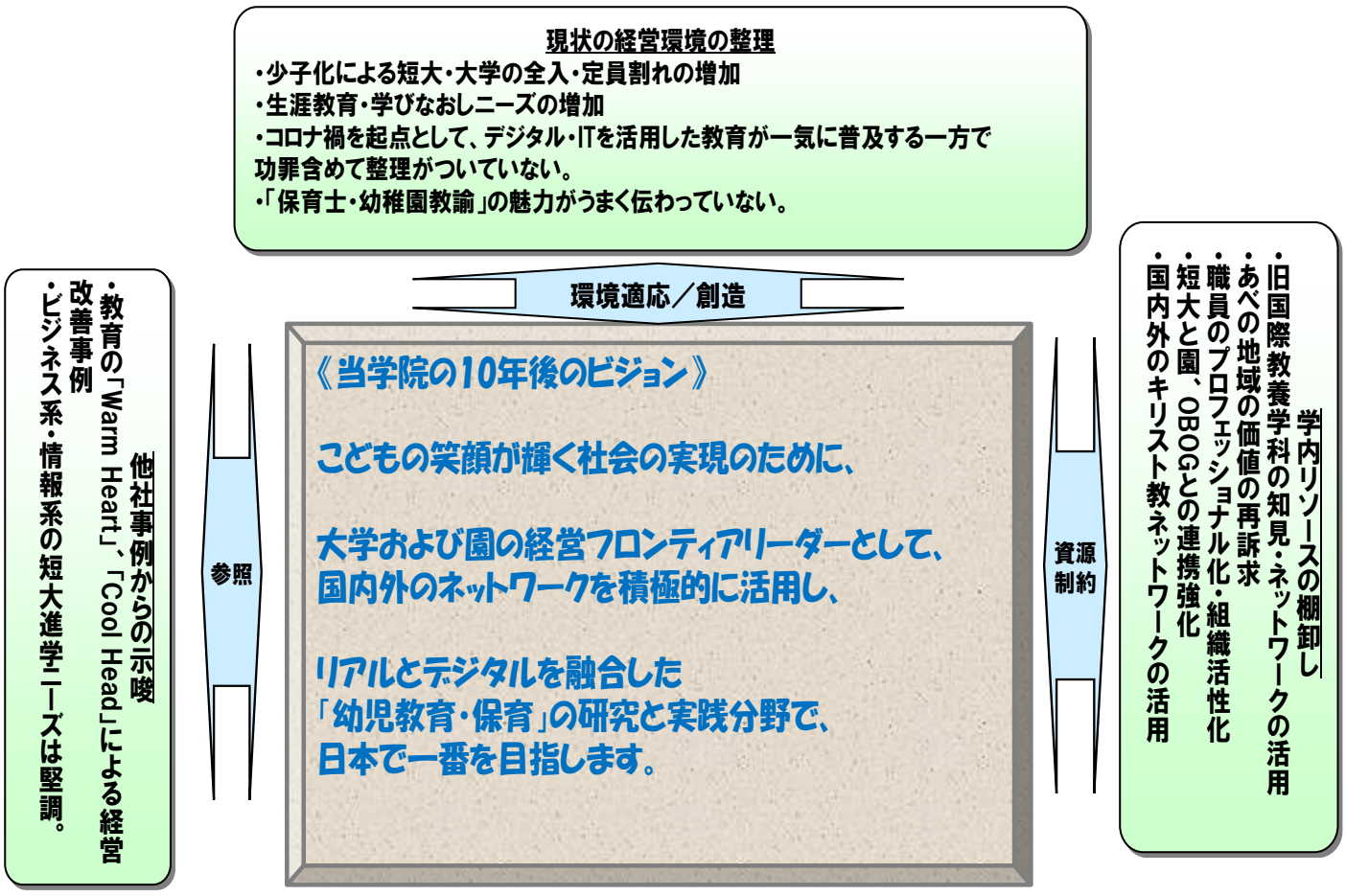
（1） OCC のミッション

■学院のミッション
- □「**社会への貢献**」　社会に貢献する質の高い教育と保育を行う
- □「**喜び・誇りの創造**」　喜びと誇りに満ちた学院を創造する
- □「**未来への成長**」　未来に続く学院の成長を目指す

■きりたんのミッション：３つのR
- □Regional Contribution　「**地域を支える人財育成**」
- □Research on Childhood Education　「**こどもの未来の基礎研究**」
- □Recurrent Education　「**生涯学習の場の提供**」

（2） OCC のビジョン

ミッションを遂行するために、社内外の環境変化を踏まえて、10 年後（2032 年）のビジョンとして下記を設定し実施している。



４．学校法人および短期大学の沿革

学校法人の沿革

1905(明治 38)年	大阪伝道学館を大阪市天王寺区下寺町に創立
1922(大正 11)年	自由メソヂスト神学校開校
1923(大正 12)年	自由メソヂスト神学校として阿倍野区丸山通の現在地に移転
1927(昭和 2)年	聖愛幼稚園を開設
1929(昭和 4)年	聖愛幼稚園、大阪府知事より認可
1942(昭和 17)年	自由メソヂスト神学校を日本聖化神学校に併合
1943(昭和 18)年	丸山学園女学校を開設
1945(昭和 20)年	大空襲により校舎のほとんどを焼失、丸山学園女学校閉鎖
1948(昭和 23)年	大阪日本橋教会を仮校舎として大阪神学校開設 聖愛幼稚園として仮園舎で保育再開
1950(昭和 25)年	大阪神学校第 1 回卒業式 大阪神学校の名称を大阪基督教学院と改称
1951(昭和 26)年	現在の丸山の丘に大阪基督教学院の校舎・礼拝堂を建築
1952(昭和 27)年	学校法人大阪基督教学院を創立 聖愛幼稚園を再開
1953(昭和 28)年	大阪基督教学院創立 50 周年記念式典
1978(昭和 53)年	グレース幼稚園が寄贈され併設幼稚園となる
1985(昭和 60)年	大阪基督教学院創立 80 周年記念式典
1988(昭和 63)年	大阪基督教学院を大阪キリスト教学院に名称変更
1999(平成 11)年	聖愛幼稚園が大阪市立幼稚園連盟研究指定園（1999(平成 11)年度～2000(平成 12)年度）
2005(平成 17)年	大阪キリスト教学院創立 100 周年記念行事を開催し、記念誌出版
2009(平成 21)年	丸山校地の隣接地（515.88 ㎡）を購入
2011(平成 23)年	幼保連携型認定こども園認可
2012(平成 24)年	幼保連携型認定こども園（聖愛幼稚園、せいあい保育園）開園
2015(平成 27)年	認定こども園（聖愛幼稚園、せいあい保育園）認定返上 大阪キリスト教学院創立 110 周年 新校舎『2 号館』竣工
2018(平成 30)年	幼保連携型認定こども園グレース幼稚園の開園
2022(令和 4)年	㈱つばきを子会社化、ほわいと保育園を系属園に
2024(令和 6)年	学校法人名を「OCC」に変更（2 月 21 日）
2024(令和 6)年	㈱つばきが㈱OCC キッズに社名変更。園名も「聖愛クロス保育園」に
2025(令和 7)年	教育テック大学院大学開設

短期大学の沿革

1952(昭和 27)年	大阪基督教短期大学（神学科Ⅱ部・保育科）を開設 第 1 回入学式
1953(昭和 28)年	大阪基督教短期大学に神学科Ⅰ部・保育科Ⅰ部・Ⅱ部増設し、児童福祉法施行令により大阪府より保母養成所指定を得る
1954(昭和 29)年	神学科卒業者に中学校宗教教諭２級普通免許状、保育科Ⅰ・Ⅱ部卒業者に幼稚園教諭２級普通免許状授与認定
1955(昭和 30)年	神学科に専攻科（神学専攻）を増設（修業年限 1 ヶ年　入学定員 5 名） 保育科第 1 回卒業式
1956(昭和 31)年	保育科を初等教育科と改称し、Ⅰ・Ⅱ部共に小学校二級普通免許の課程認定を得る 入学定員変更（神学科第Ⅰ部 10 名、第Ⅱ部 10 名、初等教育科第Ⅰ部 40 名、第Ⅱ部 40 名）
1962(昭和 37)年	大阪基督教短期大学開学 10 周年記念式典
1966(昭和 41)年	初等教育科の入学定員変更Ⅰ部 100 名、Ⅱ部 60 名
1967(昭和 42)年	初等教育科の入学定員変更Ⅰ部 150 名、Ⅱ部 100 名 大阪基督教短期大学開学 15 周年
1972(昭和 47)年	初等教育科を児童教育学科と名称変更し、初等教育学専攻（入学定員第Ⅰ部 100 名、第Ⅱ部 50 名)および幼児教育学専攻（入学定員第Ⅰ部 50 名・第Ⅱ部共に 50 名)に分離、共に小学校。幼稚園二級普通免許の課程認定を得る　幼児教育学専攻に保母養成所指定（50 名）
1974(昭和 49)年	専攻科(神学専攻)の修業年限を 2 年に変更
1977(昭和 52)年	大阪基督教短期大学児童教育学科初等教育学専攻入学定員 170 名に変更
1983(昭和 58)年	米国ニューヨーク州「ロバーツ・ウェスレアンカレッジ」と姉妹校 関係締結
1985(昭和 60)年	アジア神学協議会より神学士の学位授与認定校認可 大阪基督教短期大学児童教育学科第Ⅱ部学生募集停止
1987(昭和 62)年	児童教育学科初等教育学専攻に初等教育コース・児童文化コース・国際教養コースを、幼児教育学科専攻に保育コースを開設。神学科に神学基礎コース、文化・教養コースを開設。児童教育学科第Ⅱ部廃止 第 1 回 OCC ツアー（アメリカ、ロバーツ・ウェスレアンカレッジ）
1988(昭和 63)年	大阪基督教短期大学を大阪キリスト教短期大学に名称変更
1992(平成 4)年	学位授与機構により神学士学位申請資格校に認定 大阪キリスト教短期大学児童教育学科募集停止 大阪キリスト教短期大学児童教育学科改組転換により神学科（入学定員第Ⅰ部 10 名第Ⅱ部 10 名）神学専攻（入学定員 5 名）幼児教育学科（入学定員 120 名）国際教養学科（入学定員 100 名）の 3 学科となる

	幼児教育学科は幼稚園教諭 2 種免許の過程認定及び保母養成校の指定を得る
1993(平成 5)年	児童教育学科廃止
1997(平成 9)年	国際教養学科に情報ビジネス、英語コミュニケーション、教養特選の 3 コース設置
2000(平成 12)年	大阪キリスト教短期大学国際教養特選コースを国際教育コースに変更
2002(平成 14)年	開学 50 周年記念式典 神学科文化・教養コースを廃止、教養コースを設置
2004(平成 16)年	専攻科幼児教育専攻（入学定員 20 名）設置
2009(平成 21)年	大阪キリスト教短期大学専攻科幼児教育専攻学生募集
2010(平成 22)年	神学科廃止 専攻科幼児教育専攻廃止を申請
2013(平成 25)年	幼児教育学科入学定員 200 名、国際教養学科入学定員 70 名に変更
2014(平成 26)年	国際教養学科神学基礎コース・キリスト教文化コース、専攻科神学専攻、学生募集停止
2017(平成 29)年	国際教養学科 2018(平成 30)年度以降の募集停止
2017(平成 29)年	一般財団法人短期大学基準協会（JACA）による第三者評価の結果、適格と認定
2018(平成 30)年	国際教養学科廃止
2020(令和 2)年	幼児教育学科入学定員を 170 名に変更
2022(令和 4)年	開学 70 周年記念式典
2023(令和 5)年	幼児教育学科を「こども学コース」「教育テックコース」の 2 コース制に
2023(令和 5)年	3 年長期履修制度を導入
2023(令和 5)年	日本語別科を開設
2023(令和 5)年	一般財団法人短期大学基準協会（JACA）による第三者評価の結果、適格と認定
2023(令和 5)年	幼児教育学科入学定員を 167 名に変更
2024(令和 6)年	幼児教育学科を男女共学化
2024(令和 6)年	幼児教育学科こども学コースに「DX グローバルクラス」を開設
2024(令和 6)年	介護福祉別科を開設

５．設置する学校等　（2024 年 5 月 1 日現在）

（1） 設置する学校・学科、付属園

設置する学校	開校・開園年	学科名
大阪キリスト教短期大学	1952 年	幼児教育学科
日本語別科	2023 年	
介護福祉別科	2024 年	
幼稚園型認定こども園 聖愛幼稚園	1927 年	
幼保連携型認定こども園グレース幼稚園	1978 年	
せいあい保育園	2012 年	
聖愛クロス保育園　6 園（系属園）	2022 年承継	

（2） 学校・付属園の学生（園児）数

2024 年 5 月 1 日

学　校　名	入学定員	収容定員	現員数	備 考
大阪キリスト教短期大学 幼児教育学科	167	337	295	
日本語別科	120	240	172	
介護福祉別科	89	160	143	
幼稚園型認定こども園 聖愛幼稚園		170	153	3 歳児～5 歳児
幼保連携型認定こども園グレース幼稚園		100	97	0 歳児～5 歳児
せいあい保育園		40	40	0 歳児～2 歳児

（3） 役員（理事・監事）および評議員

人数（単位：名）　　2024 年 5 月 1 日

役職	定数	現員数	責任免除・責任限定契約	役員賠償責任保険契約
理事	10～11	10	契約あり（非常勤理事）	保険加入済
監事	2	2	契約あり	同上
評議員	21～23	21	契約なし	同上

名簿　別途掲載のとおり

（4） 教職員組織

人数　（単位：名）　　2024 年 5 月 1 日

		法人	短期大学	聖愛	グレース	せいあい	合計
教員	専任		22	11	13	10	56
	非常勤		34	14	15	13	76
職員	専任	11	26	1	0	1	39
	臨時	0	7	2	1	1	11

第二部　2024 年度　事業の概要

１．短期大学の主な教育・研究の概要

（１）教学マネジメントを踏まえた、教育活動の質の向上

①2024 年度も教学マネジメントを進めるべく、幼児教育学科「こども学コース」「教育テックコース」の双方を鑑みて、教育目標、教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの系統性について再確認し、学習者が在学中に身に付ける能力の育成に向けて、教育内容の充実を目指した。その中で、新たに「保育・教職課程の教育目標」を策定するとともに、建学の精神を具現化するものとして「きりたん１０か条」を学生、教職員に示すとともに、学内各所に掲示した。また、アセスメントポリシーの実質化のため議論を継続して検証した。

②幼児教育学科こども学コース(2 年制、3 年長期履修)、教育テックコース(2 年制、3 年長期履修)、教育テックコース DX グローバルクラス(2 年制)、通信制大学との提携による小学校教諭免許状取得等の多様な学びを継続している。「幼児音楽プログラム」「国際保育プログラム」は一定の志望者を確保し順調に継続運営されてきたが、新たに「ダンス・スポーツプログラム」の設置に向けて検討を進めているところである。

③教員の各授業での教育方法の工夫と創造、教職員の情報交換、授業研究については、教員による授業相互参観、教員の相互評価レポートによって、自己の授業を振り返り、改善工夫がなされる機会を設けている。

④2024 年度卒業生の就職希望者数に対する就職者数は 100％であった。幼稚園免許状取得は 37 名、卒業者数の 90.2%であった。保育士資格取得は 36 名、卒業者数に対する取得率は 87.8％であった。

⑤「短期大学生調査」は、一般社団法人大学・短期大学基準協会が実施する全国調査であり、その結果は、『短期大学学生に関する調査－2024 年調査　全体集計結果報告－』として取りまとめられ、Ｗｅｂサイトに掲載されている。63 短期大学 16,930 人の学生データを元にしている。本学の学生は、本学が第 1 志望としていた者が 95％を占め、本短期大学が就職に有利であると評価している。こうした調査は学内外でも様々に実施されているが、得られたデータを教学 IR の観点から活かしていくことが重要であることから、IR 推進室の設置に向けて準備を進めたところである。

⑥教学マネジメントを支える教員の能力の向上のためのＦＤ研修会として、2024 年度は、「高等教育の基礎知識を学ぶ④～入学者動向と補助金政策～」、「大学における戦略経営の取り組みと教学マネジメントについて～教職協働の重要性～」、「研究倫理とは～保育学として～」を実施した。

⑦説明責任としての情報公表

学校教育法施行規則第 172 条の２に沿って、建学の精神、教育目的、教育目標、３ポリシー、教員数等の学校基本情報、科目に関すること、評価、卒業、修了に関すること、免許取得率、就職率等は短期大学ホームページ、入学案内、学生配布の要覧等により、広く公表している。

⑧教員の研究成果は、毎年度発刊される「大阪キリスト教短期大学紀要」に発行される。2024 年度の紀要においては、「からだとつながる言葉（表現）が生成されること－保育者と子どもたちのやり取りを通して－」、「教育におけるゲーミフィケーションの現状と課題－子ども向けプログラミング教育に向けて：文献レビュー－」、「親子ヨガ前後の母親のストレス変化－付属幼稚園における子育

て支援の検討ー」、「カリキュラム・マネジメントを活用した教材研究と保育指導計画書案に作成に関する一提案ー五感を通して知る主体的・対話的で深い学びの経験からー」といった研究成果のほか、「コンケン大学付属幼稚園の教育実践報告（１）及び（２）」などが掲載されている。また、教員活動報告を毎月の学科協議会で実施している。また「教員活動報告書」で前年度分の提出を求めている。主な教員活動として各専門所属学会での会合、研究会参加、論文発表、著作執筆関係、研究会・研修会講師、作品発表等が含まれる。その他、セミナー研修会受講、運営会議関係、研究会、地域貢献等に取組んでいる。なお科学研究費支給助成事業補助金採択は 2 件であった。

（２）本短期大学独自の特別プログラムなど

①幼児音楽プログラム

幼児音楽プログラムは、豊かな音楽観を持ち、幼児教育に音楽を生かすことのできる創造性のある人材を育成することを目指し、2013 年度発足、同年入学生から開始した。例年開催している発表会については、12 月 14 日（土）に本学講堂で開催した。学生が創作したオリジナルのストーリーに基づいたドラマ仕立ての演技に沿って合唱、合奏などが披露された。当日は、学生の保護者や本学院の付属園に在籍するこどもたちと保護者などのほか、本学卒業生や受験を控えた高校生も多数来場し好評を得た。

②国際保育プログラム

2024 年度は新たに 14 名の新入学生が本プログラムに加わった。本年度も「保育分野に広く貢献し得る国際感覚をもった人材の育成」を目指してプログラムが展開された。プログラムには、プログラム必修５科目に連動させた海外実習と国内インターナショナル実習が２年次に設定されている。海外実習は、2 年生（9 名）のうち希望した 3 名が参加し、参加した学生の実習体験はプログラム内で共有された。国内インターナショナル実習は、「保育英会話」の授業と連動して全員が YMCA 英語幼児園での実習を行なった。そのほかゼミ活動として、1 年生全員が YMCA 英語幼児園での保育体験に参加した。また、留学生との交流を目的とした「グローバルデー」（きりたん学の一環）は、国際保育プログラムの学生が中心となってクイズや踊りのプログラムを進行させた。

③絵本講座の開始と安定運営

2021 年 4 月より新しい資格（認定絵本士）取得科目「こどもと絵本１・こどもと絵本２」を開講し、4 年目を迎えた。絵本専門誌委員会への書類提出などの事務作業は、教務課職員が担当、授業で利用する絵本については、各講師の求めに図書館が応じ、事務、授業運営をスムーズに行うことができた。

さらに 2023 年度より卒業生に限らず、免許資格を取得しているものは科目等履修生として受け入れることができるようになった。人数は定員の 1 割までと限られているが、付属園とホームページにて応募し、付属園の幼稚園教諭、保育士がそれぞれ 1 名ずつと、本学卒業生が 1 名受講した。30 回の講座を終え、26 名の受講生が資格を取得できた。

（３）短期大学の新コース設置と新クラスの設置準備

①教育テックコースの設置

2023 年 4 月から本短期大学幼児教育学科を「こども学コース」と「教育テックコース」の 2 コース制とした。こども学コースは従来通り保育園、幼稚園等への就職を視野に入れたものとする一方、「教育テックコース」は教育学をデジタルで進化させるための前向きな取り組みとして、「こどもの仕事は　園の先生だけじゃない」と訴求し、園の先生であっても ICT のスキルをもつ人材となる

こと、または教育・エンターテインメント産業やIT企業への就職を目指す人材になることを目指し、設置された。教育テックコースの学生向けには、秋には東京へ教育テックに関連する企業見学を行うなど、出口にも目を向けた教育が始まったところである。

②DXグローバルクラス設置

2024年より、教育テックコースのさらなる発展形として、留学生を中心に、教職は目指さずITエンジニアとしての就職を主眼とした「DXグローバルクラス」を設置した。DXとはデジタル・トランスフォーメーションの略語である。24年4月には留学生95名が入学した。

③男女共学化の開始

本短期大学は本来建学の精神のもとに、男性保育者の育成のため、2024年4月から幼児教育学科の男子学生を受け入れ、共学化した。こども学コースの教学上の特段の変更点はなかったが、設備更新などを主眼に整備が進められた。また教育テックコースにDXグローバスクラスを新設した。入学生は全員、男子を含む留学生である。

（4）教員の授業改善、自己点検・自己評価等

①授業改善への取組み

学生による授業評価アンケートをセメスターごとに実施し、回答の集計結果と自由記述のまとめは各科目の担当者にフィードバックされる。授業運営については各教員は自己点検を行い、振り返り報告書の作成を求め、以降の授業改善に繋げる仕組みによって授業改善を図っている。

②専任教員の授業相互参観

教員が相互に授業を参観し、お互いの授業を検証すること、ならびに教員同士の横のつながりを図り、相互に刺激し合うことにより、より良い教授法の開発を促進し、教育力の向上を目指すことを目的として、10月～1月にかけて開催した。24年度は介護福祉別科も含めて試行的に行い、本科教員と別科教員の参観交流を行った教員は相互参観レポートを提出し、授業を行った教員はレポートを今後の授業並びに教育に反映させていく機会となった。

③教員の評価の取組み

教員は教員評価報告書によって年度の研究業績、学校貢献、社会活動等を報告する。目標管理システムでは、教員は業務貢献(1．教育、2．研究、3．社会貢献、４．大学運営、能力開発(OFJT/OJT))、ビジョン浸透の領域について自己目標設定と自己評価を行い、学長、学科長による面談によって自身の活動を振り返り、次年度の方向性について個々に検討、助言する。また、授業については学生授業評価アンケートをもとに、ＦＤ活動の一環として担当授業科目について「自己点検・評価」を行っている。教学マネジメントでのPDCAを意識し、教育の質の向上につながる取組みを継続して行っている。

④卒業後1年の就職先アンケート

2023年 3 月卒業生の就職先にアンケートを依頼した。前回同様google フォームによる WEB アンケートを採用し、効率化を実現するとともに、考察、分析の質をアップすることができた。実施時期は2024年 7 月から8 月、 送付件数は70件で、回答数は47件であった（回収率は67.1%)。結果を学科協議会で報告したところ、講義や学生指導に結果を生かす方法について議論がなされた。

⑤自己点検評価のための活動

短期大学自己点検評価報告書作成は毎年行い、短期大学全体の自己評価の仕組みは確立している。24年度は23年度の課題のとして規程改訂委員会の立ち上げと規程の整備の開始につながった。ま

た 24 年度の自己点検評価報告書作成の取り組みが継続して行われている。

（5）入学生の学力レベルの多様化に対応した教育

学生の授業欠席日数の教員による全体把握、学習の遅れがみられる学生の支援は、個別対応に加えて、学生生活支援室との連携を行っている。単位を取得が困難な学生は退学につながるケースもある。背景に、心のケアが必要は個々に応じた受講方法に配慮したり、心のケアを行ったりしながら、受講のサポートをしている。

2024 年度は DXG クラスについては 2 年次になって多くの学生に補習の必要性が見通され、次年度に向けて時間割と体制を整える。

（6）学長・付属園長の情報交換による短期大学・付属園の連携強化

2024 年度においても実習関係の授業を中心に附属園との連携がもたれた。

①実習関係の授業では、「教育実習（幼稚園）」において学生が製作した月ごとの壁面装飾を付属園（聖愛幼稚園・グレース幼稚園）の掲示板などに飾り、学生の保育技術の向上を目指した。「観察実習」では、履修学生はそれぞれ 4 回の観察実習（１回に付き約２時間）を聖愛幼稚園で行い、観察した保育についての質問や疑問点を事後の授業内で主任教諭に直接質問し回答を得ることができた。「保育実習Ⅰ（保育所）」では、初めて保育所実習に参加する学生のために、付属保育園で保育体験が行なわれた。その他、それぞれの実習（幼稚園・保育所）の評価を受け、実践力に課題が残る学生のケースには、課題解決のため付属園で実践的学びをもつことができた。また、その際には付属園の教諭や保育士と個々の学生の課題に対する学びについて協議を行った。

②実習以外の授業内でも、附属園の園児に劇を発表したり、学生の保育計画に基づく保育実践を行ったり、食育の教材を作成して園児に贈るなど実践的学びや交流がもたれた。さらに附属園側からも、学生のための絵本と手遊びのワークショップが提供された。

学長の連携としては付属園、系属園作成の 24 年度カリキュラムの確認と不備などの指導を行っている。

２．短期大学の学生諸活動・行事報告

（1）諸行事

①大学祭

10 月 25、26 日の両日、第 57 回となる大学祭が開催された。初日はゼミの舞台発表やスポーツ大会、お笑いタレントを招へいしてのライブ等が行われた。一般開放日の 26 日は、聖愛幼稚園の園児と保護者をはじめ、多くの一般来場者で賑わった。ゼミ単位の模擬店のほか外部業者によるキッチンカーでの食品販売も行われ、2 日間を通して生き生きと楽しむ学生の姿が見られた。

②学内音楽コンテスト

10 月 15 日（火）「第 14 回 学内音楽コンテスト（本選）」が本学講堂で開催された。このコンテストは、保育者となることを目指している学生に音楽表現力向上のためのステップとしてもらうため毎年実施しているもの。予選を経た学生によるピアノ独奏、ピアノ連弾、歌唱（独唱・重唱）・管楽アンサンブルが披露され、審査の結果、各賞が授与された。

③新入生研修会の淡輪での開催

2024 年度は、2 年目の取り組みとして「国立淡路青少年交流の家」においてこども学コース新入生は 1 泊 2 日、DXG クラスは半日の研修会を実施した。交流の家に学生交流のゲームなどが用意されて、入学から間がない学生たちの交流に寄与した。またこども学コースの 7 名の男子学生は寝食を共にして、親しむ機会になったと振り返っている。－昨年の反省課題も踏まえプログラムを緩やかにしてスムーズに進めることができた。

④礼拝を通してのキリスト教活動

キリスト教主義学校の特徴として、週に 1 回の礼拝の時間がある。オルガンの奏楽を聞き、心を静めて聖書のみ言葉を聞き、幼児教育の基本である、人への愛と奉仕の精神を涵養している。近年の参加率が少ないことから、土山チャペルでクラス単位の短時間の礼拝及び、イースター、クリスマスアドベント、クリスマスについては全学生礼拝をおこない、クリスマスアドベントはクリスマスツリーの点灯式など付属聖愛幼稚園年長児の参加による合同礼拝とした。礼拝につながる行事として、聖愛幼稚園の園児と共にイースターエッグハントのゲームを行った。園児参加のクリスマスプログラムでは日程や参加方法に課題が残り、次年度は見直しの必要がある。

本年度の年間のテーマと聖句を「愛され、愛する人に（ヨハネによる福音書 13 章 34 節)」と定め、年 2 回発行されるチャペルニュースに掲載して、テーマに沿った活動を行った。29 回の礼拝のうち、8 回は外部の講演者（説教者）を招き、上記のテーマに沿った内容で講演（説教)、讃美コンサートを行うことができた。

⑤卒業生を送る会

2024 年度は、天王寺ホテルバルトゥールにて開催した。卒業生によるコンサート、教員による合唱やドレミパイプの演奏、ビンゴゲーム大会などの手作りパーティーを企画した。学生の参加率も高く、学校側の心のこもった運営は事後の学生の感想も上々であった。

（２）課外エクステンション講座の開講

①腹話術講座

11 月に 2 回に開催し、1、2 年合わせて 13 名、教員、非常勤教員 4 名が参加した。講師の腹話術の実演を視聴し、人形頭部のパーツを毛糸、フェルトなどを使って、各自の腹話術人形を作成後、発声練習、自己紹介、歌の練習などを行った。演習ではシナリオ作成や実習先での活用方法などの指導も受けた。長年依頼してきた本学卒業生の川松智子氏の最終講義であったが、実習先での活用などに期待できるため、引き続いて本講座が継続されるように講師の見通しを立てていく。

３．地域との協働・社会連携の推進、社会人学び直し機会の提供

（１）学生のボランティア参加促進

地域協働については「きりたんセンター」が窓口となっており、学生ボランティアは、延べ 134 名（実数 92 名、学生の約 55%）が活動を行った。阿倍野区との地域包括連携協定に基づき、あべのキッズサマープロジェクト（8 月 8 日、矢野ゼミ、池田ゼミ参加）や、やまざとステイ（阿倍野区子ども会育成連合会協議会主催、8 月 4 日～6 日、有志）などへの参加、また地域の要望により、ときわこども食堂への協力（高市ゼミ)、あべの天王寺サマーキャンパス（山岸・川畑ゼミ）などの活動、ときわフェスティバル、あべてん BOSAI スイッチ（社会福祉クラブ)、阿倍野区地域活動見本市での発表（高市ゼミ）などへの積極的な参加があった。

（2）こひつじルームの開催

地域の子育て支援と交流の場として、独立行政法人国立青少年教育振興機構より「子ども夢基金」の助成を受け子どもが絵本に親しむ機会を提供している。本年度は毎月約 2 回、全 19 回開催し、累計実績参加人数は子ども延べ 241 名、大人 231 名であった。安全面を考えて、予約制、また一定の人数制限をして行った。主な内容は、面展台による絵本の展示、親子ふれあい遊び、絵本読み聞かせの他、外部講師による、防災講座、フォトブース、積み木遊びなどであった。

（3）社会人の学び直しのプログラムの提供

正規の授業を聴講できる聴講生、単位を修得できる科目等履修生の制度はあるが、2023 年度はどちらも希望者がなかった。

社会人の学び直しプログラムの重要テーマとして、より充実した講習を検討していく。

（4）その他の地域連携・社会貢献の試み

阿倍野区との包括連携協定に基づく活動として、阿倍野区主催「親力アップ講座」に、講師の派遣、子育て支援の動画の作成などを行っている。

4．短期大学の入学定員確保の取組み

（1）教学面

①入学者増を目指す学科の取組みを発信する。

幼児教育・保育の学びの面白さや保育職への期待を育む発信についてはオープンキャンパスで保育職の処遇改善について情報提供したり、模擬授業で子供向けの遊びや模擬保育を体験してもらい学びの内容を伝えたり、スライドやビデオで本短期大学の実習内容や、学生の満足度の高さなどを伝えたりした。また高校訪問などでも高水準の求人や処遇の改善、手厚いピアノレッスンや充実した実習などの情報を伝えて保育者を志望する層を増やす努力を行った。

②高校生に向け魅力アップによる学生募集力強化を図る。

- 新コース「教育テックコース」について、楽しみながら学べる「プレイフルラーニング」の側面を強調し、パンフレットやオープンキャンパスで親しみやすさを訴求した。
- 学生の多様な学び方を用意する観点から、2023 年度入学生から「3 年長期履修制度」を導入したところ、初年度より好評で、2024 年度入学者は 3 分の 2 が長期履修を選択する状況であった。また、3 年長期履修を選択することによって生じるゆとりの時間を用いて小学校教諭 2 種免許状が取得できるよう、星槎大学と教育連携を結んだ。この結果、2024 年度には経過措置を利用して長期履修した 3 年生が小学校教諭 2 種免許を取得。これも今後の募集活動に組み入れていく。
- 2024 年度より男女共学に移行することを決め、男子校や工科系などにも PR した結果、初年度から 6 名の男子学生が入学した。
- 兵庫県の淡路島での新入生研修会や、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンで実施した卒業生を送る会など、多彩な学校行事についても、募集上の PR 材料として役立てた。

（2）入り口面

①入試制度の改革

早期に進路を決めたいと望む層へのアプローチをは大切で、2024 年度入学者対象の入試でも引き続き、こうした層への PR を進めた。「学校推薦型（指定校制）」に関しては指定校枠の増加、推薦基準の適性化などの見直しを行った。

②入学検定料・入学金の見直し

早期の受験者を優遇する入学金減免、オープンキャンパスに来場した生徒に対する入学検定料免除、成績優秀者への前期授業料一部免除などの奨学金制度を引き続き実施し、本学受験のインセンティブとした。

③入試・広報

・入試媒体（リクルート社「スタディサプリ進路」等）での訴求を高めるため、媒体上の動画を増やしたり、TikTok や LINE を使っての PR 活動を強化した。
・オープンキャンパスについてはダンスなどを取り入れて楽しめるものにしたり、キッチンカーを動員してにぎやかな雰囲気を作るなど工夫を凝らした。
・男女共学化によって入学してくる男子学生は純増とカウントできるため、入学者をフィーチャーした男子学生募集専用のパンフレットを作成したところ、男子学生が倍増となった。

（3）出口面

・引き続き就職率 100%となっていること、求人数が卒業予定者の 10 倍程度の高水準で推移していることを、機会をとらえアピールした。
・本短期大学の強みとして「公立園への就職」をアピールした。

5．短期大学の進路（就職等）支援の取組み

学生が社会で活躍する多様な就職機会を提供し、ひいては、入学者数の増加にも繋げていくため、進路支援面において以下の取組みを行った。キャリアセンターでは、きめ細やかな対応で、正規雇用の就職を目指し、全員の進路が決まるまで一人ひとりの志望先と状況に合わせ丁寧な支援を行っている。学生自身が「自分の意思で進路を決定し、自己決定のもと就職する」ことができるように、学生との信頼関係構築を第一に考えながら、対応に努めている。

（1）キャリアセンターの業務

全学生の進路状況を把握し、就職支援を行う組織としてキャリアセンターを設置・運用している。構成メンバーは職員６名（非常勤や派遣職員を含む）で、キャリアセンター委員の教員１名がフォローする対応をとっている。具体的な就職活動支援としては就職ガイダンスで就職活動マニュアル「就職のてびき」を配布し、就職活動の流れ、エントリーシートの作成や履歴書の書き方など、就職活動全般にわたっての説明を行い、マナー講座など実践的な内容も取り入れている。また、1 年生（長期履修３年制は２年生次）には後期 12 月～3 月にかけて、全員と今後の進路についての個別面談を実施するほか、随時キャリアセンターを来室する学生への受付対応やシステムからの予約制で個人面談も行っている。キャリアセンター委員の教員は、業務状況把握と会議報告、オープンキャンパスや高校教員就職説明会等で就職支援や就職状況の説明等を行っている。

（2）就職支援のための施設を整備し、学生を支援

キャリアセンター室内には個人面談を行う相談ブースを 2 か所設置する他、求人情報ファイルを書架に設置し、求人票以外に施設案内や卒業生の報告書を閲覧できるようにしている。また、学生閲覧検索用のパソコンを 2 台配備し、求人検索システムから求人票の閲覧もできる。その他、参考書や求人票など資料閲覧できるフリースペースもある。掲示板には保育業界・福祉業界・一般企業とコーナーを区分し、就職フェアやインターンシップなどイベント情報を周知している。面接練習については会議室も使用し、個室での対応も行っている。

（3）就職のための資格取得、就職試験対策等の支援

キャリアセンターが主催するガイダンスは時間割の中に組み込んで実施し、正課授業と重複しないようスケジュール調整している。「教育・保育系就職ガイダンス」は、こども学コース、教育テックコースの保育志望者を対象に、1 年生・長期履修 2 年生に後期 9 月～12 月まで 8 回実施し、大阪公立園園長による講話や、自己分析・業界研究、先輩内定者の報告会など、将来の展望や社会人としての意識づけ等を行っている。卒業年度の 2 年生・長期履修 3 年生には、前期 4 月～6 月に 8 回、うち 2 回は希望者を対象に公立試験対策を行い、就職試験に向けたより実践的な内容で実施した。また、後期 12 月には、社会人になる前の心構えとして学長講話を実施した。教育テックコースでは企業への就職対策として、学年毎にキャリアデザイン講座を前期に 8 回ずつ実施した。DX グローバルクラス 1 年生には、前期 5 月に大阪外国人雇用サービスセンターに講師を依頼し、「日本の就職活動について」の講座を実施するほか、就職活動が本格的に始まる 2 月～3 月に集中して就職ガイダンスを 6 回、さらにエントリーシート、面接対策の講座を各々2 回実施した。その他、学内企業説明会の実施や企業見学ツアー、インターンシップ参加へ積極的な支援を行っている。

（4）卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用

就職状況は、9 月から 3 月まで月 1 回教授会で報告している。他、3 月にキャリア委員会を開催し、報告と検討事項の協議をしている。キャリアセンターでは協議・検討事項を含め、卒業生の就職状況に関する情報を分析・検討し、学生への個別面談ではその内容を元に、学生一人一人の意向に応じた就職支援に活用している。

就職状況に関しては、就職希望者は在籍者数の 80.5 %、学科の専門を生かした園・施設への就職は 100%であった。学生が納得して進路を自己決定できるよう学生の思いを尊重しながら就職支援を行っている。

2024 年度　就職状況

就職希望者	幼稚園	保育園	こども園	施設	企業	内定率
33（人）	0	16	16	1	0	100%

（5）進学、留学に対する支援

進学を希望する学生には、キャリアセンターが個人面談で本人の意向をヒアリングしたうえで、学校案内資料や適切な情報を提供するなどの支援を行い、編入学・指定校推薦大学等案内資料はファイル管理し、キャリアセンター内で自由に資料を閲覧できる。留学を希望する学生には、きりたんセンターが欧米諸国や東南アジア圏の語学留学のみならず、スタディーツアーなど豊富な資料を提供し、支援を行っている。学生はそれらの資料を随時、閲覧できる。2024(令和 6)年度、きりたんセンターか

らの紹介による留学希望者の該当はなかったが、将来的に私費留学を希望し、計画している学生は1名いた。

（6）公立園への就職支援

具体的な強化策としてキャリアセンターに公立園出身のアドバイザーを配置。11月に、公務員対策で実績の高い外部業者による4日間のSPI対策講座を実施。講習料の一部を大学で補助。また、模擬試験や集団面接対策も実施している。キャリアセンター室内には公務員（主に保育士・幼稚園教諭・保育教諭）試験情報についても掲示コーナーを設置し、貸出・閲覧用の参考書や問題集も取り揃えている。なお、公立園（保育所）就職者は3名だった。

（7）資格取得の支援

本短期大学のカリキュラムは幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の同時取得を前提としている。ほかに、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター、准学校心理士資格、認定絵本士資格を任意で取得可能である。また、長期履修（3年制）については小学校教諭2種免許状を取得できる。教育テックコースでは、ITパスポートやマイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS)、DXグローバルクラスでは基本情報技術者の取得もサポートしている。

6．短期大学各部門の取組み

（1） 教務課の取組み

- 幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、認定ベビーシッター資格、准学校心理士資格、 認定絵本士資格取得への申請支援等を行った（取得者数は前述のとおり)。
- 2024年度の自己点検・評価のための各種資料作成に対応した。
- 例年同様、学生が卒業に向けての学修・単位修得のための履修登録や授業進行、定期試験のサポート、成績管理業務を行った。
- 2025年度よりの授業科目、カリキュラムを見直すことに伴い、シラバス、学年暦、時間割をはじめ各種の対応を進めた。

（2）学生課の取組み

多様な学生に多様な支援の観点から、学生サービスの向上に取り組んだ。

- 学生への経済的支援のための各種奨学金の手続きを行った。奨学金利用の希望者は年々増加し、多子世帯への制度も始まるなど、奨学金業務も複雑化しているが、学生が安心して修学できるよう取り組んだ。
- クラブ活動について、各クラブにクラブ見学会を実施してもらい、学生のクラブ活動参加を促した。
- 大学祭では、学生ゼミごとの出店に加え、前年度にも好評であったキッチンカーや外部飲食店に出店を呼びかけ、近隣住民も多く来学され賑わった。また、日本語別科、介護福祉別科を含め、留学生が初の参加となり、ブースを設けて展示や制作物の販売を行うなど大学祭を盛り上げた。

（3）図書館の有効活用の取組み

- 厳しい予算の中でも情報入手を心がけ、学生の学びに必要な蔵書を備えることができた。

・図書館での学生による課題作成が増える中、利用者サービスのための設備等を案内し、学生の満足度に繋げることができた。
・別科も含めて、図書館閲覧室において授業実施の機会が増えており、蔵書を活用した授業の場として機能させている。
・付属園及び系属園の先生方の貸出利用が増加しており、現場でも有効な蔵書構成となっていることが伺え、引き続き適切な対応を進めていく。

（4）国際センターの取組み
・2024 年 4 月、短期大学に「介護福祉別科」を、また、既設の教育テックコースに「DX グローバルクラス」を新設した。これにより在籍留学生が大幅に増加することから、今後の留学生受入れへの対策として、全国 100 校を超える日本語学校を訪問し、留学生募集及び関係機関との連携強化を図る取り組みを進めるとともに、留学生の安心感を支援するため、来日前オンラインオリエンテーション（多言語対応）を実施している。
・入学した留学生への支援策として、交通マナーや騒音など生活指導に注力し、日本文化への適応支援の実施継続、防災や感染症等の緊急時対応マニュアルを多言語で作成・配布、生活用品を無償提供する譲渡会を継続開催し経済的支援と学内交流の推進を図っている。
・学生の将来設計を支えるためキャリアセンターと連携した就職支援、アルバイトや在留資格の適正管理を目的に大学独自のアンケートを実施した。

（5）短期大学キャンパス内施設の改善
2024 年度は、教育環境整備としては、全教室の無線機器の交換を実施した、また、学食の機能整備を図るため、厨房機器（食器洗浄機、炊飯器、冷凍麺器、冷蔵庫・冷凍庫、プレハブ冷凍ユニット、ガステーブル、ガスフライヤー及びスープジャー）の更新工事を実施した。併せて、本館照明 LED 更新工事を実施した。

7．付属園の充実に関する取組み

（1）地域の子育ての拠点としての役割強化
聖愛幼稚園は「幼稚園型認定こども園」６年目、グレース幼稚園は「幼保連携型認定こども園」７年目で、長く地域に根差して子育て支援プログラムを実施している。聖愛幼稚園・せいあい保育園ともに、「園庭開放」「子育てサークル」を毎月実施、グレース幼稚園では年間４回実施し、毎回１０組以上の参加があり、園児募集にもつながっている。せいあい保育園では「ふれあいカフェ(園長による子育て相談室)」も計画実施できた。キンダーカウンセリングや子育て相談も実施し、子どもの発育発達に不安を持つ保護者の利用があった。
今後も「子育て支援講演会」等も計画し、地域の子育て情報発信基地の役割を果たしていきたい。

（2）健全な財政運営への取り組み
今年度のテーマは、「こどもの主体性を大切に育む園づくりを行い、地域に選ばれる園となる」であった。
そのために以下の３点を目標とした。
①　子どもの主体性を育む保育環境の充実

② 安心安全な乳幼児施設環境の整備
③ 安定した園児数を確保した安定した運営

①子どもの主体性を育む保育環境の充実
・子どもを育むために大切な保育環境(人的、物的)を充実させるために以下の点を実施した。
⇒年間２回の合同研修会実施(付属園・系属園合計９園)
＊学院のミッション、教育・保育方針、教育・保育目標の共通理解
※学び直し・ICT 活用・宗教保育（キリスト教）を中心に
＊各園のカリキュラムについて意見交換
＊キリスト教保育を進めていくうえで、幼児・こども讃美歌について
＊楽しい楽器あそび(実技含む)
＊保育を楽しむための大切にしたいポイント：人的環境と物的環境
＊こども理解：学びの物語：ラーニング・ストーリーを通して
＊互いの保育観を語り合う分団討議、他
⇒グローバル教育を実践できる環境作り
＊昨年度に引き続き海外交流を実践提供する業者のプログラムに参加し、SNS を通して海外園と交流し、SDG‘s 実践例等にも学ぶ機会を持ち、通常保育から自分たちは何ができるかについて考える機会を持っことができた。
＊海外園との交流：オーストラリア、シンガポール、インド
⇒専門知識を深める
＊大阪市調査研究事業の補助金を得ながら、以下について研究した。(せいあい保育園)
テーマ「子どもの心を育む自然環境づくり」
・園庭の自然環境を有識者とともに現場ワークと集合研修を実施
・自然環境が子どもの心にどのような影響があるのかを研究
・当大学教授共コラボ研究
＊ChatGPT 研修
・DX･AI 活用人材育成 リスキリング研修：「業務効率改善のための ChatGPT 活用術講座」
・保育者の業務効率化
・保育の質向上に結び付ける
②安心安全な乳幼児施設環境の整備
・安心安全な保育施設となるよう、老朽化対応と時代を見越した保育環境作りを実施した。
⇒聖愛幼稚園：園舎１階シロアリ対策工事、園庭ままごと小屋入替
＊せいあい保育園：テラススクリーン可能器具設置(大阪市性被害防止対策補助金使用)
保育室照明 LED 化
③安定した園児数を確保した安定した運営
・人材確保が急務の課題ではあるが、上記①②の実施により、予定園児数を確保、また、適切な補助金の獲得により、予算的には、安定した園運営を実施できた。

（３）人材確保と育成の取り組み
今年度は、特に聖愛幼稚園への応募者が少なく、年間を通して苦戦した。当大学からの応募がない為、キャリアセンターや教授陣とも協議を重ね、学生ボランティアの受入れ(有償)やオープンタイム

(学生が実習でも役立つように、手遊びや絵本の読み聞かせなど、実際に現場の保育者が、どのように子どもと関わっているかを参加しながら学べる時間)を作り園に足を運んでもらう機会を増やす工夫をした。成果は、次年度以降になるが、実りあることに期待する。尚、近隣園では、要支援園児の入園を断る園もあり、益々当園への期待が高まっていることもあり、引き続き計画的な保育者採用を実施する必要がある。また、系属園の人材強化にも寄与していきたい。
※内部研修内容については、(2)-①に記したと通りである。
※外部研修については、処遇改善加算の給付対象が、「キャリアアップ研修」の受講修了者に限定されたこともあり、保育者には、積極的に研修受講を促した。また、キリスト教保育連盟主催の研修にも交代で参加するようにした。

(4) 大阪キリスト教短期大学との連携
昨年度と同様に実習関連の受け入れ、学生のボランティア活動等を中心に連携を深めている。特に、せいあい保育園の自然環境に関する研究には、大学と連携して実施ができた。次年度も継続して研究し学びを深めていきたい。聖愛幼稚園、グレース幼稚園は、園児(年長児)の体力測定による健康教育関連の研究が引き続き実施された。
今後は、特別支援、国際教育についても共同研究していきたい。
※2025 年度より開学される教育テック大学院大学に付属園保育者より入学希望があり、無事に合格した。保育の質向上は、もちろんのこと、保育者のキャリアアップの目標にもなることに期待する。

8. 大学院大学開設への取組み

(1) 設置認可申請
2023 年 10 月 27 日付けで文部科学省に、教育テック大学院大学の設置認可を申請し、審査を受けた。その結果、2024 年 8 月 29 日に、文部科学大臣より設置の認可を得た。
なお、申請書や審査での質疑・意見に関する文書での応答は、法令により原則として文部科学省より、その全文が近日中に公開される予定である。(個人情報や安全に関わる事項等は除外されます)

(2) 学生募集
認可を受けた直後から、学生募集の準備に取り掛かり、2024 年 10 月より説明会を開始した。入試は、11 月～翌年 3 月まで計 6 回行い、定員 67 名に対して 67 名の入学者となり、入学定員充足率 100%を満たした。

9. 法人本部の取組み

- 2024 年度は、短大幼児教育学科の教育テックコース内に「DX グローバルクラス」が開設されたほか短期大学に「介護福祉別科」も開設された。2023 年 10 月には「日本語別科」を開設しており、留学生受け入れに大きく舵を切った年度であった。
- 2025 年 4 月開学の教育テック大学院大学の開学準備には大きな力を割き、2024 年 8 月、文部科学省より設置認可を得た。フルオンライン大学院とはいえキャンパスは埼玉県入間市に位置するため、採用活動も実施した。

・2024 年度は、ガバナンス改革（執行と監視・監督の役割の明確化・分離）を主眼とした私立学校法の改正（2025 年 4 月 1 日施行）に伴い、寄附行為の大幅改正が求められた。改正内容は、理事会と評議員会の関係変更を含む抜本的なものであった。法人本部内に「私学法改正に関する検討会」を開催し、全面的な改定に取り組み、理事会議決を経て 2024 年 9 月に文部科学省に寄附行為変更を申請し、認可された。
・この寄附行為変更に伴い寄附行為細則の改正、内部統制システム整備の基本方針を 2025 年 1 月 29 日の理事会で策定し、さらに 2025 年 3 月 26 日の理事会で、理事選任機関運営規程、理事の職務権限規程、コンプライアナス規程を策定し、また監事監査規程、経理規程、内部監査規程、リスク管理規程を改正するなど関連規程を整備した。
・2022 年度に策定した「10 年の計」について 3 年経過を迎えるにあたり、当初計画の検証に着手し、この中で、海外中等教育学校日本校の設置計画について検討を進め、理事会においてその都度説明をしている。2025 年度に引き続き検討することとした。

第三部　財務の概要

・別紙計算書類のとおり。

第四部　今後の課題

１．短期大学

2023 年度には 10 月に日本語別科が発足に続いて、2024 年度には、介福祉別科のほか教育テックコース DX グローバルクラスが開設された。これにより留学生数は 2024 年 4 月の段階で 500 人以上となった。2024 年度は特に日本語別科での教職員のガバナンスにおける運営課題が浮き彫りになった。ハード面では組織構成の確認と確立を行い、運営面、教員獲得などのソフト面ではまだ構築途上であるが、2025 年度に向けて別科長、別科長補佐がリーダーとして、整備に注力した。別科については建学の精神につながる教育課程の確立、教職員の一体感の醸成、教職員の情報共有や連携による学生サービスの充実が引き続きの課題となる。短期大学はこれに対応するために教員の自覚を促し、全学的な取り組みで本科、別科の安定した業務運営を図る体質を作っていく。
一方で、幼児教育学科の入学定員確保、入学者数増は喫緊の課題である。保育者、保育の魅力をオープンキャンパスや社会に向けて発信する。また、教育テックコース DXG クラスの入学時から就職に向けての学習成果の保証のための指導強化は教員、キャリアセンター協働によって実行していく。次年度の開講に向けて、ダンス・スポーツプログラムの教育課程の策定や教員の人選を行う。基本事項として教員の研究の奨励も継続して行う。

２．園事業

園事業の安定運営を図るため、以下の５項目について課題解決を行う。
①地域の保育・教育への貢献、②保育施設の安全強化と美化、③保育内容の更なる充実、④保育者の業務軽減、⑤人材確保と育成

地域貢献として、未就園児とその保護者が集う場や子育て支援、講演会等を大学と協働して実施。安全面では園庭の整備、防犯カメラや電気錠等の警備体制を強化。保育内容では、子どもの主体性を育む保育の実践、宗教教育の深化、グローバル化対応、ICT や生成 AI の活用、大学・大学院との連携による保育・教育研究の推進を図る。さらに、保育者の業務軽減や人材確保にも注力し、本学からの新規採用や学生への魅力発信、OJT や研修を通じた人材育成に取り組む。
これらの取り組みを通して、「きりたんブランド」「聖愛ブランド」を明確化させ、在園児への保育・教育の質を高め、関係者全体の満足度の向上を図り、地域から選ばれる園を目指す。

３．共通課題

2022 年度に策定した「10 年の計」を含む 2032 年の OCC ビジョンを実践し、新たな「革新」を起こしていくが今後の共通課題である。
こどもの笑顔が輝く社会の実現のために、教職員はもちろん、在学生、OB/OG、高校生や高校の先生方、社会人、事業家、および行政の関係者と協働し、10 年後の未来を創る活動として、幼児教育・保育の研究・教育と実践の高度化、新たなキャンパスの建て替え構想などが今後の課題となる。併せて、従来からの課題である人財育成・人事労務管理、働き方改革への対応も進めるとともに、防犯や自然災害等に対する危機管理体制の強化を図っていくことも課題となる。

以上